

施策番号	0501		
施策名	生活安全（防犯・事故防止）の推進		
概要	関係機関との連携を強化しながら、防犯のための啓発や環境づくり、交通安全のルールやマナーの啓発を行うとともに、地域における防犯・事故防止の取組を支援する。		
担当局・部室	文化市民局・くらし安全推進部	共管局・部室	
上位政策	5 市民生活の安全		
施策に関する 主な分野別計画等	生活安全（防犯・事故防止）基本計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		28年度	29年度	30年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	交通事故による死者数(人)	a	a	24	27	27人以下	100.0%	a	1.00
2	交通事故による死傷者数(人)	a	a	5,816	5,166	7,450人以下	130.7%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		28年度	29年度	30年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。	c	c	18 4.0%	133 29.5%	177 39.2%	83 18.4%	40 8.9%	451
2	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全に くらせるまちになっている。	c	b	31 6.8%	170 37.4%	166 36.5%	58 12.7%	30 6.6%	455
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		c	b	市民生活実感調査総合評価					c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					29 年度	B
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 「交通事故の死者数」などの客観指標の数値よりも、市民が安全を実感した「体感治安」の向上の方がより安全対策の効果の現れと言えることから、市民の実感に重みを置くこととする。						28 年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析)市民生活実感調査総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・犯罪や事故等は身近に起こりうるものであるという実感があるなかで、昨今、悲惨な犯罪や交通事故が取り立てて報道されること等によって、実際には犯罪認知件数及び交通事故発生件数は年々減少しているにもかかわらず、「体感治安」は低下していると考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		30年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		29年度 決算額	30年度 予算額		
1	違法駐車等防止対策事業	226,096	191,915	良い	行財政局
2	防犯推進委員連絡協議会助成	1,798	1,681	良い	文化市民局
3	交通安全対策の推進	84,562	81,770	かなり良い	文化市民局
4	京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例の推進	75,832	73,541	かなり良い	文化市民局
5	犯罪被害者支援策の推進	19,657	21,627	良い	文化市民局
6	野生鳥獣による生活環境被害防止対策及び自主防除組織支援対策	37,741	37,730	悪い	文化市民局
7	生活安全条例に基づく施策の推進	38,711	39,178	かなり良い	文化市民局
8	世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動	201,353	189,506	かなり良い	文化市民局
9	繁華街における飲食店等による客引き行為等対策の推進	55,999	59,487	良い	文化市民局
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・小学校区や元学区単位で、地域住民と区役所、警察署等の関係機関が連携して形成された学区の安心安全ネットワークに対して、補助金、防犯活動支援物品の貸出し等を実施することにより、防犯をはじめとする幅広い分野での、地域特性に応じた市民の自主的な活動の継続を支援する。
- ・「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」における取組の指針となる「全市版運動プログラム」に基づき、各行政区単位で、市民、区役所・支所、警察署等からなる区推進組織を中心に、「区版運動プログラム」により取組を進めるとともに、全市的な取組として、防犯カメラ設置促進補助事業等を進める。
- ・こうした事業により、課題となっている「体感治安」の向上を図る。

施策名		0501		生活安全（防犯・事故防止）の推進										
指標名		交通事故による死者数（人）												
担当課		くらし安全推進課		連絡先		2 2 2－3 1 9 3								
1 指標の説明														
交通事故発生から24時間以内の死者数														
2 指標の意味				3 算出方法・出典等										
交通事故や犯罪が少ない安心・安全なまちづくりに向けた進み具合を示す指標				出典：京都市主要統計										
4 数値														
	前回数値	最新数値	推移	目標値			達成度							
	28年	29年		数値	根拠									
数値	24	27	3人増	27人以下	第2次生活安全基本計画（改定版）における平成32年度の目標値（20人以下）から、各年度の目標値を等差的に算出		100.0%							
	全国順位	中長期目標				備考	第2次生活安全基本計画（改定版）に基づき目標値を変更							
		数値	目標年次	達成度	根拠									
数値		20人以下	32年度	65.0%	第2次生活安全基本計画（改定版）									
5 評価基準			6 基準説明			7 評価結果								
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			・当該指標は市民の「自らを守る意識」の高まりなどが大きく影響することなどから、80%以上をa評価 ・以下20%刻みでb～e評価			<table><tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>a</td><td>a</td><td>a</td></tr></table>			28	29	30	a	a	a
28	29	30												
a	a	a												

指標名		交通事故による死傷者数（人）												
担当課		くらし安全推進課		連絡先		2 2 2－3 1 9 3								
1 指標の説明														
交通事故によって負傷し、治療を要する者の数（交通事故発生から24時間以内の死者数を含む。）														
2 指標の意味				3 算出方法・出典等										
交通事故や犯罪が少ない安心・安全なまちづくりに向けた進み具合を示す指標				出典：京都市主要統計										
4 数値														
	前回数値	最新数値	推移	目標値			達成度							
	28年	29年		数値	根拠									
数値	5,816	5,166	650人減	7,450人以下	第2次生活安全基本計画（改定版）における平成32年度の目標値（5,200人以下）から、各年度の目標を等差的に算出		130.7%							
	全国順位	中長期目標				備考	第2次生活安全基本計画（改定版）に基づき目標値を変更							
		数値	目標年次	達成度	根拠									
数値		5,200人以下	32年度	100.7%	第2次生活安全基本計画（改定版）									
5 評価基準			6 基準説明			7 評価結果								
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			・当該指標は市民の「自らを守る意識」の高まりなどが大きく影響することなどから、80%以上をa評価 ・以下20%刻みでb～e評価			<table><tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>a</td><td>a</td><td>a</td></tr></table>			28	29	30	a	a	a
28	29	30												
a	a	a												